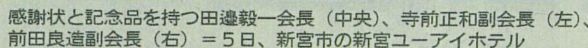


服部久美子さん（左）に教わりながら
帯結びの習得に励む参加者。4日、新
宮市の大王地会館

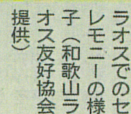


パノーム小学校など訪問

3年ぶり渡航で校舎譲渡式

和歌山ラオス友好協会

ラオスはインドシナ半島に位置する多民族・社会主義国家で、人口は約734万人。国土の約70%が高原や山岳地帯であり、都市・農村間の格差などが問題となっている。同協会はラオスとの文化・経済の交流や観光・教育の援助を通じて友好的な関係を築こうと2015年に発足。現地訪問や学校への備品寄贈などの活動を継続してきた。



11月14日に
行われたセレ
モニーには、
校舎で学ぶ約
150人の児童
をはじめ、
現地の市長や
教育長、村
長、学校長、
政府関係者ら
が出席。拍手
の花道と生花
のレイで同協

20年11月には、建設を支援したパノーム小学校の新校舎が完工したが、コロナ禍で渡航できなかつたため、先に現地での共用を開始。校舎は世界文化遺産でもあるルアンパバーン市の街並みになじむ外観で、トイレや机、椅子、扇風機なども合わせて寄贈した。

会の一行を迎えた。
田邊会長は訪問を振り
返り「セレモニーのあい
さつで『日本を知ってい
ますか?』と尋ねると、
一斉に子どもたちから手
が挙がった。3年前は3
分の1程度だったため、
この数年で日本の認知度
が高まり、親睦に役立っ
ていることが感じられ

日本司法書士会連合会は16日(土)午前10時午後4時、身近な暮らしの中の法律家・司法書士による「年末困りごと相談会」を実施する。電話およびLINE(ライン)で対応する。相談料無料。

毎年、年の瀬になると「年を越す前に今年の悩みを解決したい」との相談が増え、役所が閉庁となることで生活困窮者が大変な状態となる可能性がある。それらの相談電話に要に応え、生活困窮状態にある人々の問題解決の糸口とすべく企画した。

借金や生活困窮、労働問題、離婚問題、養育費、生活保護、消費者トラブル、相続放棄などの相談

た。現地ホテルで日本企業関係者を多く見かけたことにも触れ「われわれの活動が下支えになり、民間企業や政府間レベルでの交流も盛んになっていけば」と期待を込めた。

寺前副会長と前田副会長は経済振興も兼ねて現地調達した学用品をプレゼントした。子どもたちの目が勉強への意欲に輝いていたことが印象的だった。今後も取り組んでいかなければと使命感を新たにしたい」と話していた。

同協会は今後、ルアンパバーン市の中心地から50⁺ほど離れたホイントン村での校舎建設も視野に

入れており「活動に協賛していただける方は、ぜひ私たちと一緒にラオスと交流しましょう」と呼びかけている。興味・関心がある人は、和歌山ラオス友好協会事務局（新宮ユースアイホテル内、電話0735・22・6611）まで。（石田幸子）

電話番号は0120・121218、LINEからは、友だち検索で「@699kmsg」で検索し、「日司連(年未困りごと無料相談)」を友だちに追加する。

庭を赤が彩る

「本満さん宅の紅葉」

いな庭す」と町二河だ。二などがして同町間、鯛ってき県で過という